東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2017
「美しく生きる　～大学は知の宝庫～」

第 4 回　11/28（火）13:30～15:00　報告
一人暮らし高齢者と地域の絆
講師　宮本邦雄（本学客員教授）　　於：図書館大セミナー室

＊◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆◆＊◆◆◆＊

平成 29 年度第 4 回公開講座（受講者 30 名）が 11 月 28 日（火）に開催されました。東海学院大学人間関係学部心理学科客員教授の宮本邦雄先生による「一人暮らし高齢者と地域の絆」の演題でした。岐阜県内の 3 つの調査をもとに、単身世帯高齢者の社会的孤立の要因について、単身世帯高齢者の世代間交流について、地域とのつながりの再生に向けたまちづくりの取り組みについての報告が紹介されました。

最初に社会的孤立の定義「1 週間で会う人の数が 2 人以下」について説明されました。次いで『高齢社会白書 2016』に基づいた単身世帯高齢者の社会的孤立の現状について、大都市部では 50 歳以上の男性・未婚者が社会的ネットワークの低い傾向にあり、死亡率にも繋がっているのに対し、過疎地域では近隣の人とのつながりや土地の愛着から生活を維持する努力が示され、地域間で差が認められているとの報告でした。

次に岐阜県内の３つの調査が報告されました。

１つ目は、岐阜県内の市街地域である各務原市と農山村地域である高山市に居住する単身世帯高齢者に対しての調査が報告されました。結果、地域間の共通点として社会的孤立は地域への愛着スタイルと強く関連している一方、地域間の相違点として居住歴、子どものある者、老人クラブ加入率、近所つきあいは高山が各務原より高く、地域活動への参加は各務原が高山より高い回答率が示されました。また、各務原は趣味や友人との交流が多いのに対して、高山はテレビや新聞・畑や家事が多い傾向にありました。

２つ目は、北方町県営住宅において実践されている高齢居住者と若年子育て世代の交流サロンへの参加者を対象にした調査研究の報告が示されました。結果、交流サロンは高齢者にとって気楽な居場所づくりになっており、子どもの相手をすることを楽しみにしている一方、育児中の親も一息つける場になっており、異世代交流に適切な支援ができていることが伺えました。今後持続的にすすめるためには活動主体の自治会・住民を支える公的機関、民間団体の連携と人的連携が必要との提案がなされました。

3 つ目は、今年度活動中である「まちづくり講座 in 尾崎」の地域づくりのリーダーの養成、地域つながりの再生、活動づくりの場への取り組みについての進捗状況の報告が示されました。各務原市の尾崎団地での取り組みとして、環境（公園を活用したグランドゴルフ・バザーの開催）・人（シニアの方がいつでも気軽に参加できる常設型サロンの試み）・名所（近場の３つの山の登山ルートマップの作成）・交流（若年層と高齢者の交流）に注目したグル

ープに分け、それぞれの活動の報告が示されました。そして、このような活動を通しての提案として、なかなか活動に参加されない引っ込み思案の方でも参加していただける方法として、「無記名・無登録・終始時間がない」ことがまず気楽に参加してみようと思うきっかけになるのではないか？との新たな課題を皆さんに投げかけて講座は終了となりました。

参加された方のなかにはメモをされている方も多く、熱心に聴講されていました。単身世帯・夫婦世帯にかかわらず、退職後の第２の人生を迎える団塊の世代以降の方にとって、これからの人生を考える良い機会になった講座でした。

【講座の様子】